

オアシス新聞

第3号

ホトトギス 鳴かぬなつていつするの?

5月5日の立夏から、暦のうえでは夏となります。薄い和紙を貼り付けたような春の空から、澄み切った抜けるような青空へと、次第に移り変わってゆきます。

「目に青葉 山ホトトギス 初カツオ」と詠われるように、夏の到来を知らせる鳥としてホトトギスがいますが、ここ小雀公園でもその姿が観測されています。キョッキョッキョッキョッキョという鳴き声は「テッペンカケタカ」や「特許許可局」とも聞こえます。また夜に鳴く鳥として珍重され、初鳴きを誰よりも早く聞くために、夜通し待つ姿が枕草子にも描かれています。

ホトトギスはインドや中国で越冬し、ウグイスが繁殖をする5月頃に日本へ渡ってきます。なぜウグイスの繁殖期に合わせるかというと、ホトトギスは自分で子育てをせず、ウグイスに托卵(たくらん)するからなのです。他人に子育てをさせるなんてスルいなあと思われますが、他の鳥と比べて体温変化が大きく、孵化をさせるのが難しいため、自分では卵を温めないという理由も一説にはあるようです。

日本に現存する最古の万葉集の中でも詠まれていたり、先に用いた「目に青葉・・・」の川柳のように、ホトトギスは古来より親しまれている鳥ですが、もっとも有名なホトトギスを用いた川柳は、三人の天下人の性格を後世の人が表した「なかぬなら 殺してしまへ 時鳥(ホトトギス)」「織田信長短気(ウグイス)」「鳴かずとも なかして見せら 杜鵑(ホトトギス)」「豊臣秀吉 策士(ウグイス)」「なかぬなら 鳴まで待た 郭公(ホトトギス)」「徳川家康 忍耐」というのがよく知られています。さてあなたはどのタイプ??

